

る。本草学者の植物にたいする考え方、扱い方、また本草学が博物学から農学などの応用の方面へ進んで行く過程を示している点でも歴史的な価値をもつ。本書の出版は Franchet et Savatier, Enum. Pl. Jap. I, 1875; II, 1877から15年後の発行であるが、その発行は着手してから10数年かかっていると言うので、Fr. et Sav. の本の出版のすぐ後に計画されたわけである。田中芳男は Franchet や Savatier と親交があったようで、後者の本にはしばしば田中の名がでてくる。田中等は Franchet の指導を仰いでいたのであろう。本はほぼ Fr. et Sav. の本の学名に従っていて、後者の学名の植物の実体を知る参考にもなるであろう。

田中・小野等が新学名を作ったかどうかの問題であるが、同氏等の本は忠実に Fr. et Sav. の本の学名に従っているようで、応用を目的の中心としていて、当時の新進の植物学者のように学名の当否を研究しようと言う意図は無かったようである。モクセイ以外に新学名らしいものは少し見たところでは見当たらない。キンモクセイ、ギンモクセイの図のそれぞれに *Olea fragrans* alba, *O.*

fragrans lutea と書かれている。図は正確でキンモクセイは現在のキンモクセイであり、ギンモクセイも現在の中国系のギンモクセイであることがわかる。和文には学名が無いが、英文の解説では上記の名の下に記載にあたる説明文がある。品種とも変種とも書かれていないが、英語版を見た Green がこれを学名と見たのも無理の無いところである。ところが学名の索引には *Olea fragrans* fl. alba, fl. lutea とある。これは花に白いものと黄色いものがあることを意味しているのであって、学名として記したものではないことを示している。本文や図に alba, lutea とあるのは、その前がラテン語であるため説明もラテン語で記したので、学名を付ける意図ではなかったものと考えられる。Green は著者不明のためにこの名を使用しなかったが、著者が明らかになっても、学名として付けられたものではないから、年代は後でも牧野先生の学名から始めるのがよいであろう。著者名がない以外の形は整っているので、使用しなくてもいいが、学名として使用しないのが妥当だと思う。(山崎 敬 Takasi YAMAZAKI)

第15回国際植物科学会議 (XV IBC)

XV International Botanical Congress, Tokyo

IBC とは 1900年にパリで第1回大会が開かれた国際植物科学会議 International Botanical Congress (略称 IBC) は、植物を対象とした研究のすべてをテーマにする国際会議で、最近では6年に1回開催され、4,000人前後が参加しており、国際生物科学連合 (IUBS) の傘下の国際会議としては最大の規模を誇っている。また、国際植物命名規約の改訂を検討する命名規約会議が開かれ、規約の改訂が行われるのもこの会議である。

この会議はこれまでヨーロッパと非ヨーロッパで交互に開かれ、14回ベルリン、13回シドニー、12回レニングラード、11回モントリオール、10回エジンバラなどでそれぞれ成果をあげてきた。

第15回会議 アジアではじめて開かれることになった第15回会議は、1993年8月28日(土)~9

月3日(金)を主会期に、横浜市国際平和会議場(パシフィコ横浜)で開催される。

28日の開会式では J. シェルと P. H. レーブンによる基調講演が予定されており、夕方にはウェルカムパーティが催される。

会議では8つの特別講演と230のシンポジウムが計画されている。プログラムは系統と進化、構造とその動態、植物化学・天然物化学、代謝と生体エネルギー論、発生科学、生態学と環境科学、遺伝、バイオテクノロジーの8分野に整理されているが、本誌の読者に魅力的なテーマも多いはずである。シンポジウム以外の発表はポスター形式で、約1,000のポスター発表が期待されている。

9月3日の閉会式はこの会議の国際母体である国際植物学菌学連合の総会を兼ねるものであり、

諸決議が採択されるほか、命名規約の改訂もここで確定する。最後はフェアウェルパーティでしめくくられるはずである。

会期中には関連する学会や学会連合の総会や理事会等が開かれ、ワークショップや、会場を別にする関連集会もいくつか計画されている。

命名規約会議は8月23日～27日に同じ会場が開かれ、また、会期前、会期中、会期後に数多くのエクスカージョンも計画されている。

参加の手続き XV IBCについては第2回案内はすでに出されており、この記事が出る頃には第3回（最終）案内も出ている予定である。会議に出席するためには登録をしていただくことになるが、その様式も案内にはさみ込まれている。登録料は4月10日までは正会員4万円、学生会員2万円などで、それ以外は日に応じて少し高くなることになっている。

案内の請求や登録の申し込みは

〒103 東京都中央区日本橋 2-14-9

加商ビル2階

(株)アイシーエス企画

第15回国際植物科学会議係

Fax: 03-3273-2445

宛に連絡していただきたい。シンポジウム講演とポスターの要約（申し込み）のしめ切りも4月10

日であり、宛先は上記のとおりである。

会場は横浜の桜木町駅（JR、東急東横線、市営地下鉄）から動く歩道と徒歩で約15分、バスの便もある。

関連のイベントなど 学術的なポスター発表のほかに商品展示も行なわれ、科学機器、試薬、書籍などの展示、即売が行なわれる。参加する内外の著名植物科学者の協力を得て、会場で公開講演会が開催され、一般市民向けに植物科学についての紹介も試みられる。また、同伴者向けのプログラムも準備し、純粋に科学的な討議をするのと並行し、日本をよりよく知ってもらう機会も提供する。

近頃では若手を含めて国際会議に参画する機会も増えてきたが、今回のように2,000人近い外国人生物学者が日本に集まるといえるのは稀な機会である。生物学の第一線で活躍する内外の研究者と意見を交換し、自分でも研究成果を発表できるなど、大変よい機会であるといえる。多くの人達がこの会議に参加されるよう御紹介する。

一般なお問い合わせは〒112 東京都文京区白山 3-7-1 東京大学理学部附属植物園 XV IBC事務局（岩槻、秋山、または菅野^{カンノ}）Tel 03-3814-0138, Fax 03-3814-0139で伺います。

（岩槻邦男 Kunio IWATSUKI）

新刊

□志村義雄：日本のイノデ属（シダ植物）160pp. 1992. 自家出版. 〒420 静岡市大岩 2-20-11. ¥6,500（送料 ¥310）。

イノデ属 *Polystichum* はオシダ科の一群で、世界に広く分布していて、日本には特に種類が多く、研究も盛んに行なわれている。本書は志村氏多年の成果を基に、あらゆる面からイノデ属シダを解説したものである。種（著者は安定種と呼ぶ）の数33、これに4変種、4品種、10奇形種が加わる。次にイノデ属には雑種がたくさん知られているが、ここには実に53の雑種が挙げられている。これらの種類ごとの説明は、和名・学名・出典、詳細な記載、分布、他種との雑種、産地など関係事項の文献、葉および生態の写真などから成立っ

ていて親切に書かれていてわかりやすい。これが大部分を占め、その前後に、イノデ属の研究史、主な文献、分類の概要、種類を同定するための形質、安定種類を調べる時に目安になる着目点、検索表、種類の一覧表、近似種類間の区別比較、などがあり、推定自然雑種についてはその特色、着目点、一覧表など、次に地理的分布、生態的分布、染色体数と関連事項、各種数の和名の由来、その他が説明されている。イノデ属を研究する者にとって大いに役立つ文献である。（伊藤 洋）

□東京書籍：草花の観察「すみれ」東京書籍ニュー・CALソフト。1992. ¥24,720（税込）。

スマイレの観察図鑑ではなく、中学校理科教育用の植物同定ソフトである。身近に自生する草本植